

解答

問1 冒頭文中の令和3年度「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書(株式会社日本総合研究所)」では、家族の世話をしている小学6年生は何%だったか。なお、割り切れない場合は、四捨五入し、小数第1位までの値を算出せよ。

答え：6.5 (%)

問2 冒頭文中の(ア)に当てはまる適切な語句をa～eの中から答えよ。

答え：d

問3 図1はヤングケアラーが担っている世話の内容を、表1は平日1日あたりの世話に費やす時間と現在の困りごとを示している。以下の選択肢a～eのうち、図1、表1から言えることを2つ選び、アルファベットにて回答せよ。

- a. 最も多い世話の内容は家事(食事の準備や掃除、洗濯)であり、次に見守りである。
- b. 入浴やトイレのお世話を担う者の人数は、200名ほどである。
- c. 買い物や散歩に一緒に行く者の割合は、話を聞く者の割合の約0.7倍である。
- d. 平日1日あたりの世話に費やす時間の長さに関わらず、30%以上の者は特に困りごとがない。
- e. 平日1日あたりの世話に費やす時間の長さが短いほど、友達のこと困っている者の割合が高い。

答え：c, d

問4 表2は、世話を必要としている家族が「父母」である場合、「父母の状態像」についてヤングケアラーに回答を求めた結果である。この結果を元に、作成途中の図2のレーダーチャートを完成せよ。

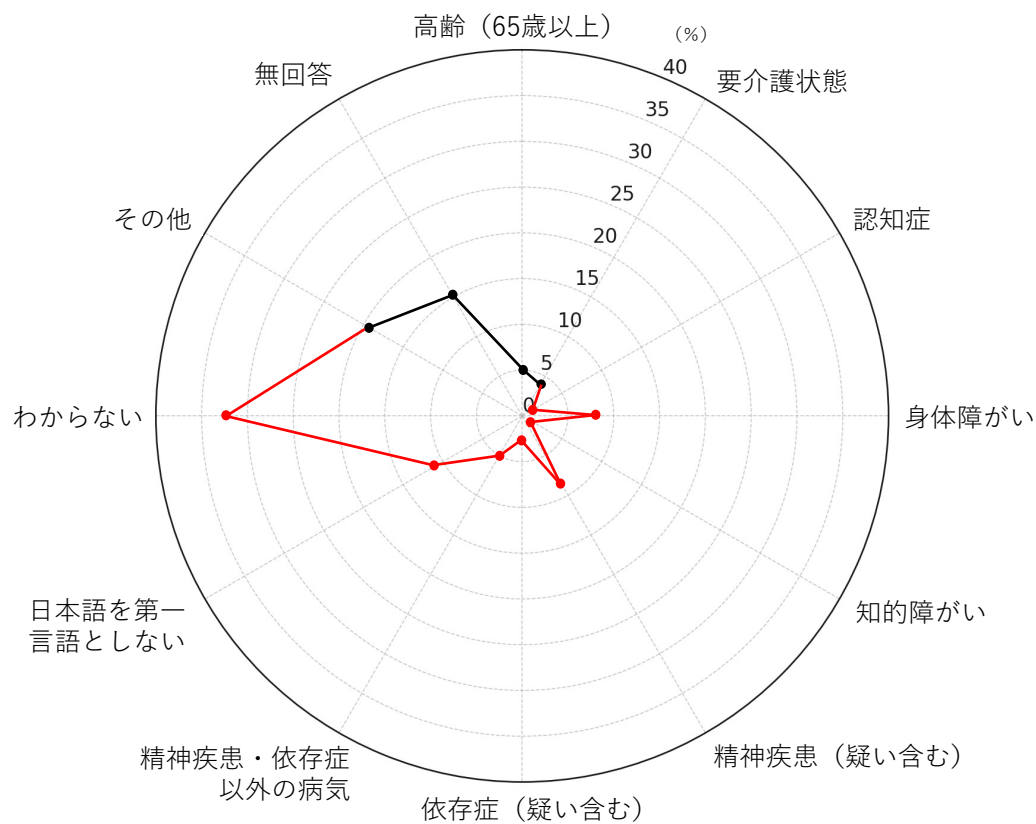


図2 レーダーチャート 「世話を必要とする家族（父母）の状態像」

問5 表3は、一般国民を対象として、ヤングケアラーについての認知度と、周囲にヤングケアラーがいた場合に想定される対応について問うた回答の結果を表す。この表から読み取れる内容について示した以下の文について、空欄部A～Cに当てはまる適切な語句を記入せよ。

ヤングケアラーについての認知度が高いほど、具体的な対応に結びつきやすく、認知度が（ A ）ほど、（ B ）、（ C ）という回答が多い。

答え：A 低い B 何もしない C わからない → B、Cの回答順は不問

問6     ここまで、小学6年生を対象としたヤングケアラーの現状、家族を世帯することが与える影響、一般国民のヤングケアラーに対する認識等について示してきた。また、ヤングケアラーの中には、平日に1日7時間以上も家族の世話にかけていながら「相談するほどのことではない」という認識の者が約6割存在するなど、問題の根は深い。これらの問題を鑑みて、ヤングケアラーの心身の健やかな成長のためには、関係機関や団体などが連携し、ヤングケアラーの発見と支援につなげる取組みが求められるが、どのような取組みが考えられるだろうか。あなたの提案を理由とともに400字以内で述べよ。なお、その取組みを「誰が」行うのかについても明記すること。